

# 日本リスクマネジメント学会

## 第35回全国大会

### 報告要旨・レジュメ集

2011年9月9日（金）・10日（土）

#### 白梅学園大学

統一論題：「3・11後の日本に求められるリスクマネジメント」

①地域社会と子どもの未来

②震災・津波と企業の復元力 現代社会とリスクマネジメント

小さくても生きる学会 1978年創立 リスクマネジメント研究の老舗

日本リスクマネジメント学会

本部 関西大学 社会安全学部

## 日本リスクマネジメント学会 第35回全国大会

\*プログラムに一部修整がございます。

### 第1日 大会プログラム【2011年9月9日(金)】

- 12:00~13:00 日本リスクマネジメント学会理事会・評議員会 I-23 講義室 (\*変更)
- 13:10~13:20 開会の辞 尾久裕紀(大会実行委員長) J-14 講義室 (\*変更)
- 13:20~13:50 会員総会 日本リスクマネジメント学会 三賞授与式
- 13:50~14:50 第4回「学生・大学院生・若手研究者 研究報告表彰制度」報告
- ①「東日本大震災被災者の精神健康とリスクマネジメント」金子信也(関西大学)
- ②「大量調理施設における衛生管理の効率化と経営」樽井雅彦(仁愛大学)
- 14:50~15:05 休憩 この間に審査
- 15:05~15:20 表彰 受賞者スピーチ
- 15:20~16:00 特別講演「ドイツから見た東日本大震災(Japan's triple disaster・inconsistencies in societal attitudes towards risk)」フランツ・バルデンベルガー(ミュンヘン大学)
- 研究報告
- 16:00~16:30 江尻行男(東北福祉大学)「東日本大震災:東北の被災地から」
- 16:30~17:00 藤江俊彦(千葉商科大学)「東日本大震災と災害危機管理」
- 17:00~17:15 総括 15分スピーチ 亀井利明(日本リスクマネジメント学会会長)
- 17:15~17:25 閉会の辞
- 17:30~ 懇親会 I棟3階 学生食堂

### 第2日 大会プログラム【2011年9月10日(土)】

- 10:00~10:10 開会の辞 J-14 講義室 (\*変更)
- 統一論題「3.11後の日本に求められるリスクマネジメント」
- 10:10~11:30 ①地域社会と子どもの未来 司会兼問題提起 亀井克之(関西大学)
- 奈良由美子(放送大学)「生活再建とリスクマネジメント」
- 尾久裕紀(白梅学園大学)「リスク社会における子育て支援」
- 11:30~12:00 ②震災・津波と企業の復元力 司会兼問題提起 上田和勇(専修大学)
- 12:00~13:00 昼食
- 13:00~14:30 高野一彦(関西大学)「東日本大震災と企業の危機管理」
- 中居芳紀(東京海上日動)「東日本大震災:保険をめぐる諸問題」
- 姜徳洙(専修大学)「韓国から見た東日本大震災」
- 14:30~14:45 休憩 (この間に質問票回収)
- 14:45~16:00 全体ディスカッション
- 16:10~16:25 総括 15分スピーチ 戸出正夫(日本リスクマネジメント学会 会長代行)
- 16:25~16:30 閉会の辞 竹本恒雄(日本リスクマネジメント学会評議員会 会長)

小さくても光る学会 日本リスクマネジメント学会 1978年創立 リスクマネジメント研究の老舗

日本リスクマネジメント学会 第35回全国大会 白梅学園大学

第2日 大会プログラム【2011年9月10日（土）】

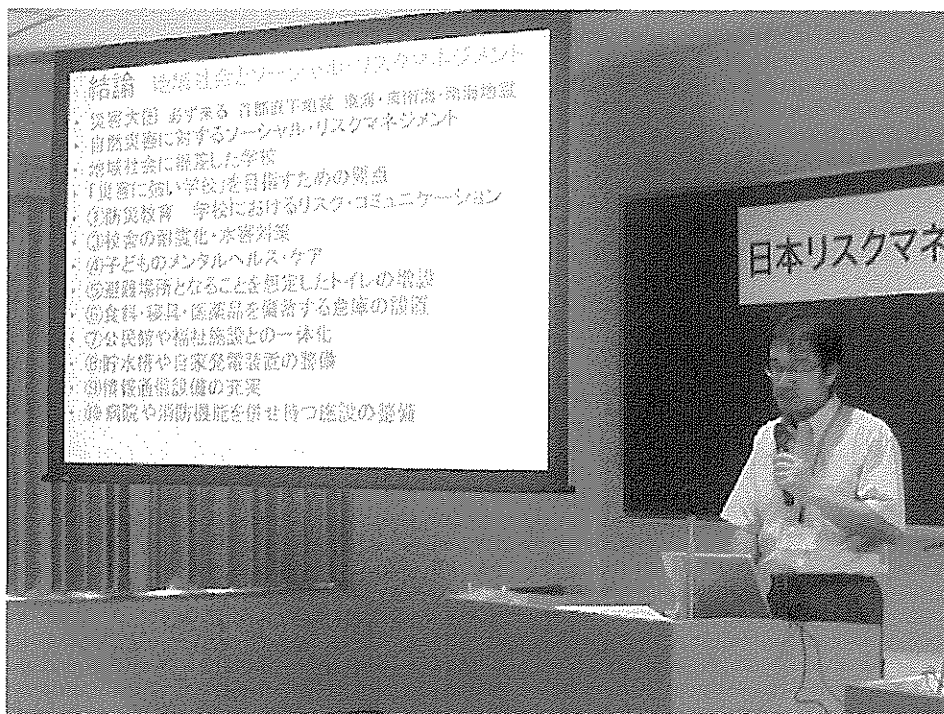
- 10:00～10:10 開会の辞 J-14 講義室（\*変更）  
統一論題「3.11後の日本に求められるリスクマネジメント」
- 10:10～11:30 ①地域社会と子どもの未来 司会兼問題提起 亀井克之（関西大学）  
奈良由美子（放送大学）「生活再建とリスクマネジメント」  
尾久裕紀（白梅学園大学）「リスク社会における子育て支援」

統一論題「3.11後の日本に求められるリスクマネジメント」

①地域社会と子どもの未来

司会兼問題提起 亀井克之（関西大学）

1. 地域社会とソーシャル・リスクマネジメント
2. 地域社会と学校  
ー被災地の学校調査からー
2. 1. 災害に負けない学校作り ー防災拠点としての学校
2. 2. 初動対応 ー学校における危機管理とリーダーシップ
3. 地域社会と子ども
3. 1. 防災教育 ーリスク・コミュニケーション
3. 2. 児童・生徒のメンタルヘルス





- 1. 地域社会とソーシャル・リスクマネジメント
- 2. 地域社会と学校
  - ー被災地の学校調査からー
    - 2. 1. 災害に負けない学校作り ー防災拠点としての学校
    - 2. 2. 初動対応 ー学校における危機管理とリーダーシップ
- 3. 地域社会と子ども
  - 3. 1. 防災教育 ーリスク・コミュニケーション
  - 3. 2. 児童・生徒のメンタルヘルス

## 結論 地域社会とソーシャル・リスクマネジメント

- 災害大国 必ず来る 首都直下地震 東海・東南海・南海地震
- 自然災害に対するソーシャル・リスクマネジメント
- 地域社会に根差した学校
- 「災害に強い学校」を目指すための要点
- ①防災教育 学校におけるリスク・コミュニケーション
- ③校舎の耐震化・水害対策
- ④子どものメンタルヘルス・ケア
- ⑤避難場所となることを想定したトイレの増設
- ⑥食料・寝具・医薬品を備蓄する倉庫の設置
- ⑦公民館や福祉施設との一体化
- ⑧貯水槽や自家発電装置の整備
- ⑨情報通信設備の充実
- ⑩病院や消防機能を併せ持つ施設の整備

## 3. 地域社会と子ども

### 3. 1. 防災教育

#### ーリスク・コミュニケーション

	話 備え	訓練
家庭		
地域		
学校		
家庭＋地域＋学校		

### 3. 2. 子どものメンタルヘルス

- 「なかなか口を開かない」
- 「遊びなどで粗暴になった」
- 「震災前に比べて幼くなっている」
- 「少しハイになっている」
- 学校生活が軌道に乗り日常を取り戻す中で、
- 友人が転校してしまったりして
- 「一緒に遊んでいた友達がいない」などの現実
- 震災直後は元気に見えた子どもがふさぎ込む
- 文部科学省、教員やスクールカウンセラー追加配置。

## 2. 地域社会と学校 —被災地の学校調査から—

- 2. 1. 災害に負けない学校作り —防災拠点としての学校
- 2. 2. 初動対応 —学校における危機管理とリーダーシップ

## 2. 1. 災害に負けない学校作り —防災拠点としての学校

- 文部科学省 6月8日発足
- 災害に強い学校づくり 専門家による検討会
- ①学校施設の耐震化や津波対策
- ②応急避難場所として使う際に必要なトイレや飲用水などの設備
- ③電力不足の状態を想定した省エネルギー対策などが議論のテーマに

## 2. 1. 災害に負けない学校作り —防災拠点としての学校

- 全国で約6400の公立の学校施設が被害
- 岩手県約400カ所
- 宮城県約800カ所
- 福島県約700カ所
- 避難所になった学校数は一時、300カ所
- 6月上旬で、約130カ所で被災者が暮らす
- 校庭に仮設住宅が建設された学校64校



## 2. 1. 災害に負けない学校作り －防災拠点としての学校

- 全国の公立学校で耐震化工事の計画が整備されていない施設は約1万7400棟
- 2010年4月時点の公立小中学校の耐震化率は73.3%、2011年度末に86%に
- 文部科学省は、2015年度までに全施設の耐震化を終える目標

## 2. 2. 初動対応 －学校における危機管理とリーダーシップ

南三陸町 8月23日



南三陸町 8月23日



南三陸町 8月24日



南三陸町 歌津中学校 校長



宮城県 亶理(わたり)町 長瀨(ながとろ)小学校  
鈴木千代子校長 渡邊清孝教頭 8月25日



宮城県 亶理(わたり)町  
長瀨(ながとろ)小学校 校区 4月21日





亙理(わたり)町 長瀬(ながとろ)小学校 8月25日



亙理(わたり)町 長瀬(ながとろ)小学校 8月25日



亘理(わたり)町 長瀬(ながとろ)小学校 8月25日



亘理(わたり)町 長瀬(ながとろ)小学校 8月25日

体育館の前を流れる川が  
津波の第一波の衝撃を吸収した



名取市 宮城県農業高等学校 8月25日



名取市 宮城県農業高等学校





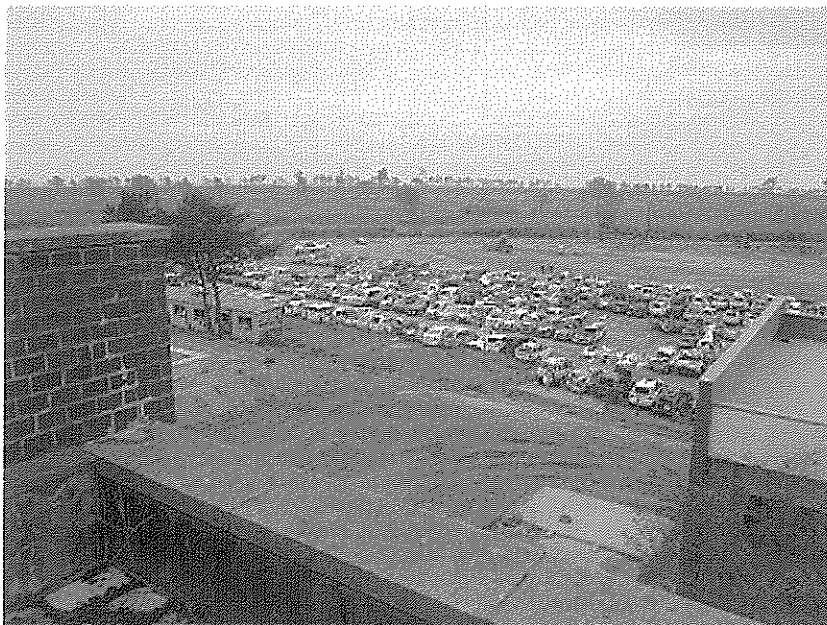
## 名取市 宮城県農業高等学校



## 名取市 宮城県農業高等学校



## 名取市 宮城県農業高等学校



## 名取市 宮城県農業高等学校



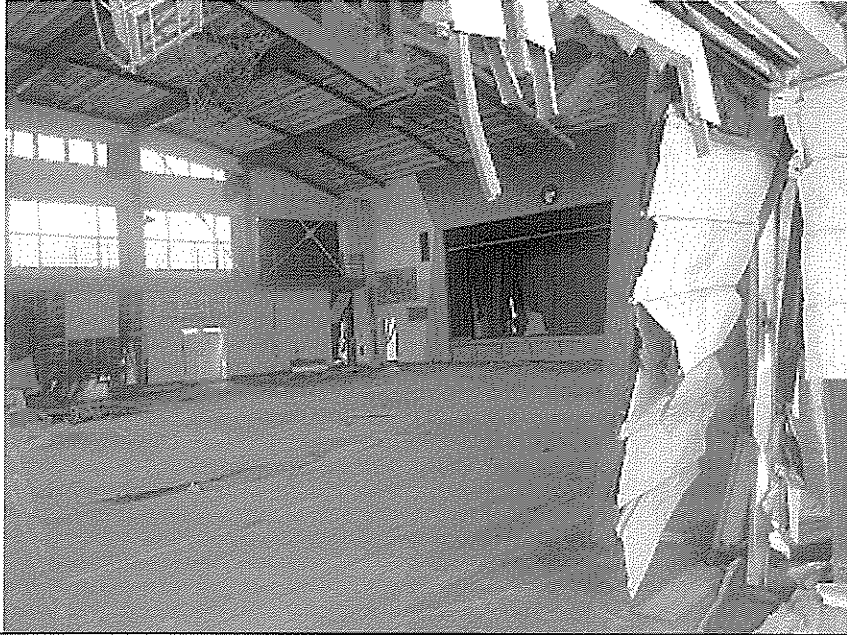
仙台市荒浜小学校 8月25日



仙台市 荒浜小学校

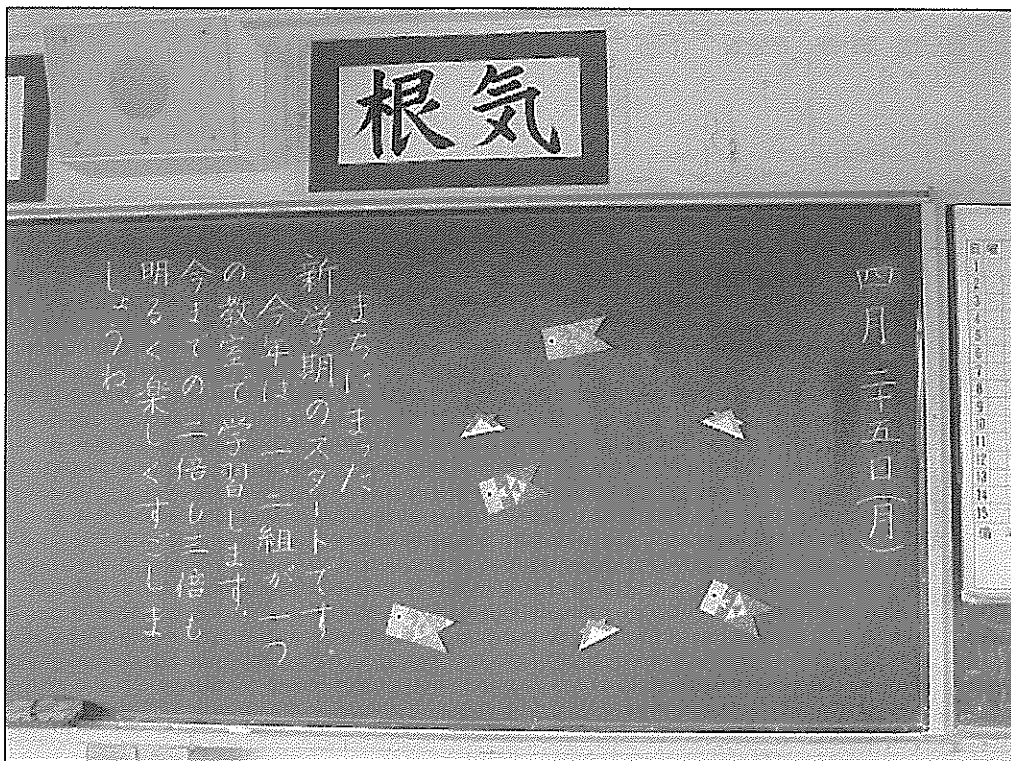


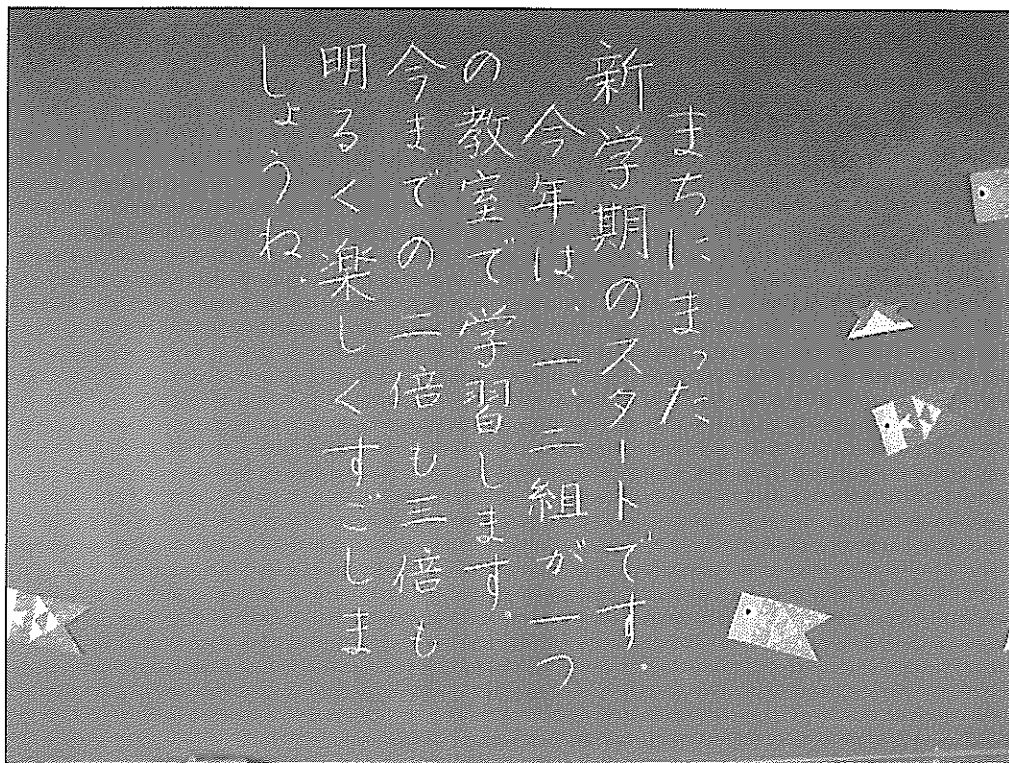
仙台市 荒浜小学校



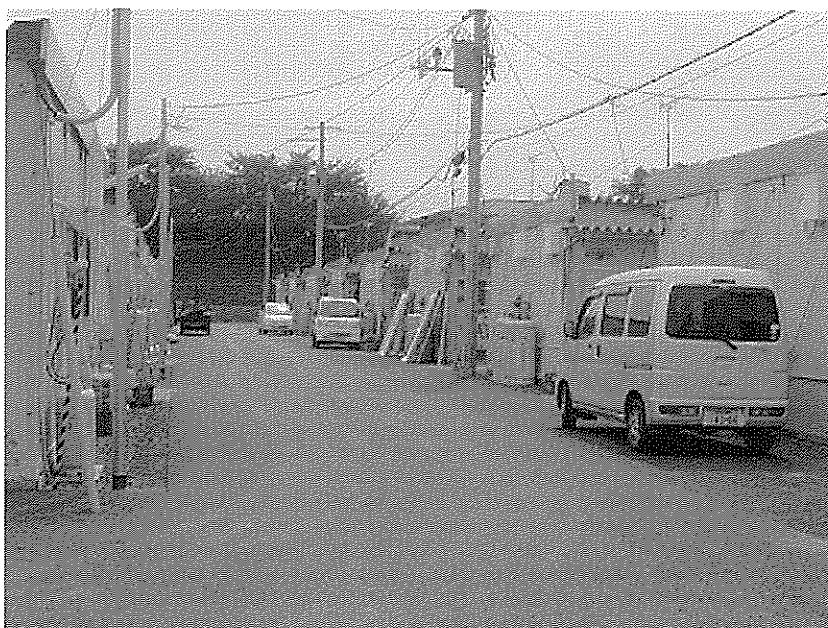
仙台市 荒浜小学校







巨理町 宮前仮設住宅 8月25日

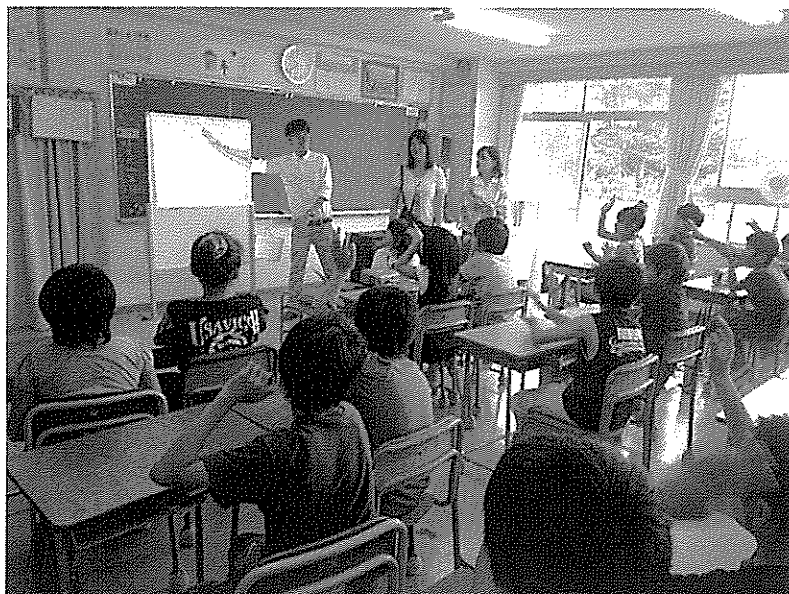


## 亘理町 宮前仮設住宅 8月25日



## 長瀬小学校 8月25日

関西大学 社会安全学部生による5年への特別授業「大阪の文化」







## 生活再建とリスクマネジメントー東日本大震災の被災地からー

奈良由美子（放送大学）

### 1. 緒言

#### 1. 1. 本報告の目的

- ① 生活者にとって「被災する」とはどういうことか：時間軸および生活の構成要素により整理
- ② 「被災」をめぐる課題の検討：生活再建とリスクマネジメントの手がかり

#### 1. 2. 報告者の研究経緯

- (1) 生活リスク研究：多種多様な生活リスク
- (2) 自然災害ー忘れられない3つの地震
  - ① 阪神・淡路大震災（1995. 1. 17.）
  - ② 四川大地震（2008. 5. 12.）
  - ③ 東日本大震災（2011. 3. 11.）

### 2. 災害と「被災」

#### 2. 1. 災害とは

「災害とは、地震、噴火、洪水などさまざまな災害要因による、社会とその成員に対する破壊と剥奪と喪失のプロセスのこと」（広瀬弘忠『災害に出会うとき』1996）

#### 2. 2. 災害と時間

##### (1) 緊急社会システムとその特性

災害時等に生じる通常の社会過程とは異なる一時的な社会的適応過程。  
不確定性の増大、緊急性の増大、自律性の低下

##### (2) 「被災」のとらえかた

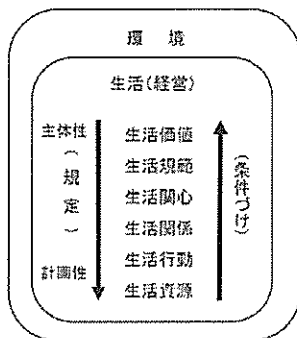
数ヶ月、数年のあいだ「被災」は続く

表 地震発生から復興までの時間経過

	被災者のレベル	フェーズ
応急対応期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命(命を落とす)</li> <li>・財産(財産を失う)</li> <li>・生活支障(毎日の生活に支障が出る)</li> <li>・恐怖心(心の平静をうしなう)</li> </ul>	フェーズ0(失見当期) 地震発生～10時間 被災者は自分の力だけで生き延びなくてはならない。 組織的な災害対応ができない。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命</li> <li>・財産</li> <li>・生活支障</li> </ul>	フェーズ1(被災地社会の成立期) 10時間～100時間 被災者の命を救う活動が中心。災害情報が入手可能になる。 組織的な災害対応活動がはじまる。
復旧・復興期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財産</li> </ul>	フェーズ3(復旧・復興期) 1000時間～ 人生と生活を再建する。破壊された街の復興、経済の立て直しがはじまる。

### 3. 被災と生活

#### 3. 1. 生活の構成要素



生活価値：個人にとっての生活のよりよさの判断基準。

「生活において何が大事か」

生活規範：それぞれの場面に成り立つ社会規範を、実際に行動する本人の具体的な事情と他人の反応にあわせつつ再編成したもの。各人の持っているルール。

生活関係：生活圏域に規定された、あらゆる場面で取り結ぶ人間関係。個人の持つ「役割」を含む。

生活関心：生活者の生活目標についての関心、利害。

生活行動：実際の生活場面に生活資源を位置づける活動。

生活資源：活用できる生活の手段、用具、機会、情報。

#### 3. 2. 東日本大震災と生活変容

－被災されたかたがたの声と現地視察から－

##### (1) フェーズ1 < 失見当期：地震発生～10時間 >

- ① すべての構成要素が「命を守る」ために動員
- ② 切迫した状態での役割遂行（家族、隣人、患者、乗客を助ける）
- ③ 生活資源（とくに情報資源、能力資源、対人関係資源）の持ち合わせの程度が救命に作用

##### (2) フェーズ2 < 被災地社会の成立期：10時間～100時間 >

- ① 「命を守る（救う）」に依然強い関心
- ② きわめてプリミティブなレベルでの生活資源の獲得と配分
- ③ 役割コンフリクトの発生

##### (3) フェーズ3 < 災害ユートピア期：100時間～1000時間 >

- ① 生活資源の獲得に差→生活行動に差
- ② 生活関心にも差が生じる（資源による条件づけ）
- ③ 被災地規範が発生。そのなかで被災者役割を遂行、役割コンフリクトの本格化。

##### (4) フェーズ4 < 復興・復旧期：1000時間～ >

- ① 今回の災害を振り返り意味づけはじめる（→生活価値への条件づけ）
- ② 生活関心の具体化と差の拡大
- ③ 生活資源については、経済的資源の獲得が深刻に
- ④ 相対的剥奪のなかでの生活関係

#### 3. 3. 阪神・淡路大震災と生活変容

－阪神・淡路大震災 被災地を対象とした質問紙調査および聞き取り調査から－

#### 3. 4. 四川大地震と生活の復旧・復興

－被災地（北川県、汶川県）の現地視察ならびに聞き取り調査から－

## 4. 「被災」をめぐる課題

### 4. 1. 生活リスクマネジメントの課題

#### (1) いまの被災（者）と将来の被災（者）

－誰でも「災害弱者」になりうる－

- ① フェーズ0の重要性：まずは「命を守ること」。平常時からの資源向上。
- ② フェーズ3と主体性

#### (2) 生活リスク再考

- ① 生活は多面的で総合的、したがって生活リスクも多種多様。そのなかでの防災・減災。
- ② 防災意識・防災行動の風化は宿命  
「平常時」と「非常時」への目配り、資源兼用

#### (3) 生活リスクマネジメントとリスクコミュニケーション

- ① 自助、公助、そして共助  
防災力は「コミュニティ力」。
- ② リスク情報とリスク認知バイアス  
正常性バイアス、ベテランバイアス。ハザードマップの功罪、「釜石の奇跡」。

### 4. 2. 生活リスクマネジメント「学」の課題

#### (1) 第4期科学技術基本計画（2011.8.19.閣議決定）

－「イノベーション」と「課題解決」（産学官・分野横断的）－

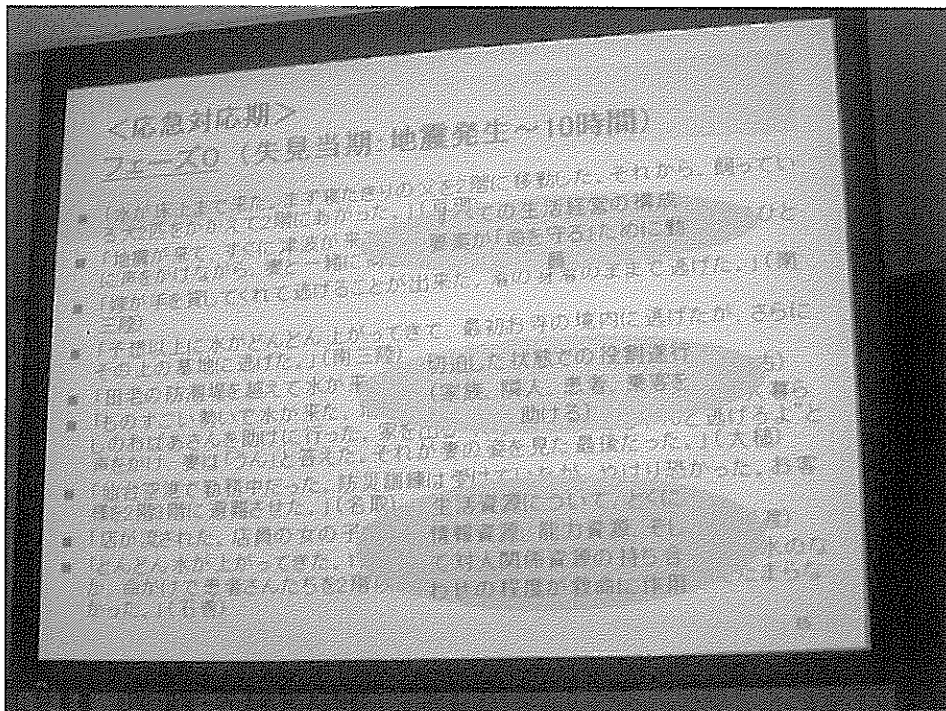
- ① 目指すべき国の姿
  - 1) 震災から復興、再生を遂げ、将来にわたる持続的な成長と社会の発展を実現する国
  - 2) 安全かつ豊かで質の高い国民生活を実現する国
  - 3) 大規模自然災害など地球規模の問題解決に先導的に取り組む国
  - 4) 国家存立の基盤となる科学技術を保持する国
  - 5) 「知」の資産を創出し続け、科学技術を文化として育む国
- ② 今後の科学技術政策の基本方針
  - 1) 「科学技術イノベーション政策」の一体的展開
  - 2) 「人材とそれを支える組織の役割」の一層の重視
  - 3) 「社会とともに創り進める政策」の実現

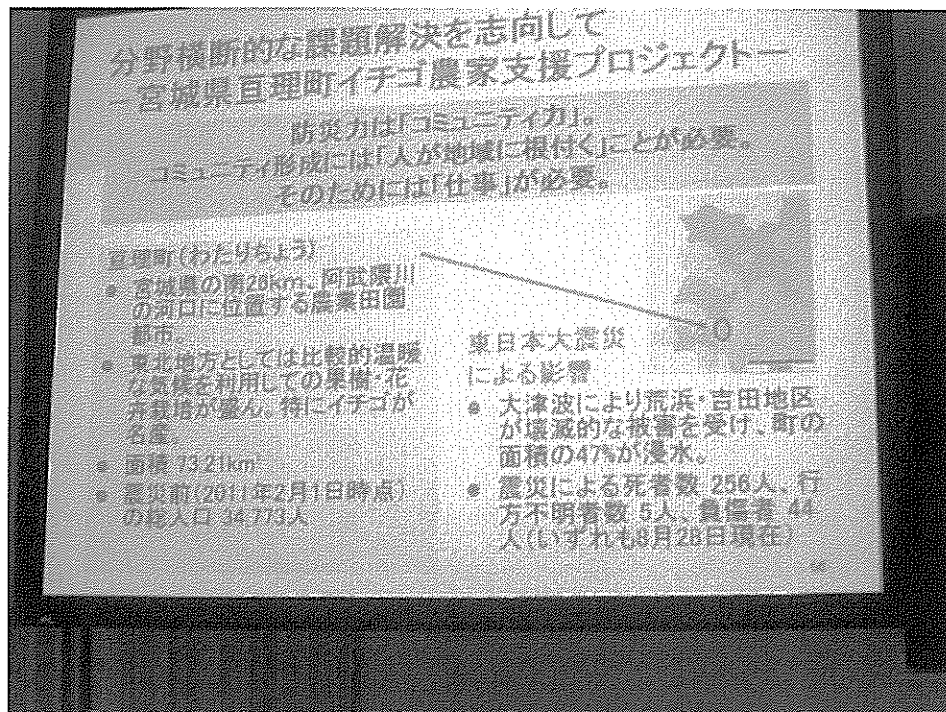
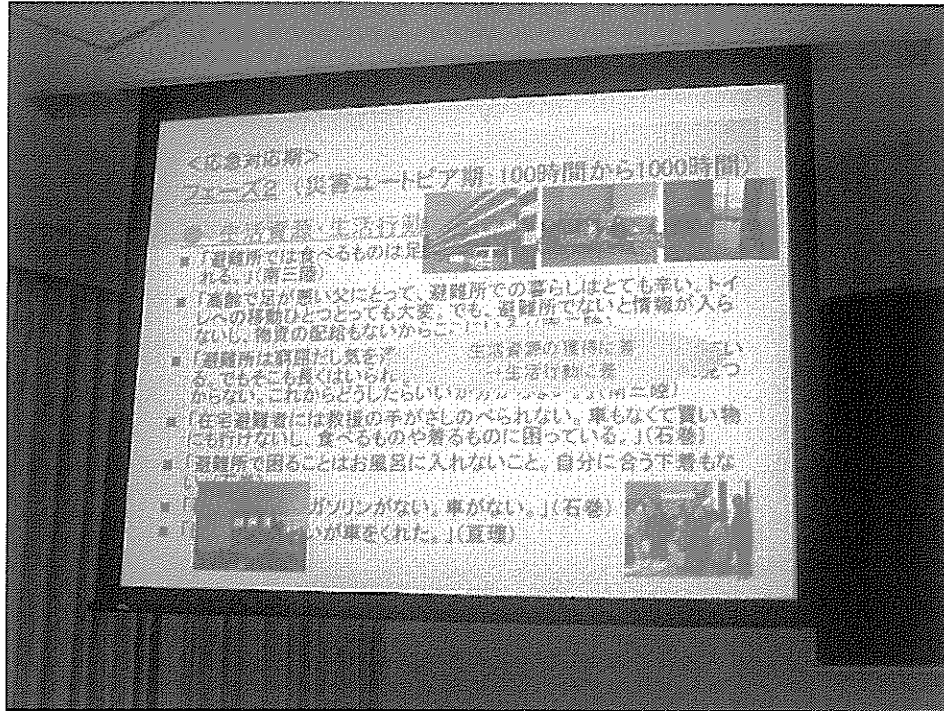
#### (2) 分野横断的な課題解決を志向して

－宮城県亶理町イチゴ農家再建プロジェクト－

防災力は「コミュニティ力」。コミュニティ形成には「人が地域に根付く」ことが必要。  
そのためには「仕事」が必要。

## 5. 結語





### 瓦理町の現状

- イチゴの生産がさかん(隣接する山元町と合わせると、およそ380戸のイチゴ生産農家)。
- 津波による壊滅的被害。イチゴのハウス等も流された。
- 4月18日から重機によるがれき撤去が始まり、一時仮置き場への撤去はほぼ完了。
- イチゴ生産の一日も早い再開を希望。(この夏に作付けを始めれば、今年11月からの収穫が可能。)
- 若手は農者が多い。復旧の遅れは、後継者の町外流出につながる。(実際、他の仕事に就いたり、他の地域に移住する若手が出始めている。)

